



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 5 月 28 日(水)

発行 館長 加藤 智 一

## 「パッチワーク」そして「裂き織り」からチリの砂漠へ思いを馳せる

繊維の起源は非常に古く、最も古い繊維としてはジョージアのマルツヴァンティロ遺跡から出土した繊維の年代は 34,000 年前頃と推定され、人類が早期に繊維を作り出していたことを示しています。また、世界最古の布といわれているのが、約 4,000 年以前のエジプトのピラミッドから発見された藍染めの麻布で、リネンは世界最古の繊維とされています（諸説あり）。麻織物は耐久性があり、古代エジプトの人々にとって重要な素材でした。また、世界最古の絹織物は、中国で発見されており、約 3,000 年前の浙江省の銭山漾遺跡で発掘された絹織物が最古と言われています（諸説あり）。絹は、蚕の繭から作られる繊維です。その柔らかさと美しさは世界中で高く評価され、中国文化や経済に大きな影響を与え、シルクロードを通じて東西の交流が盛んに行われました。



人々は太古の昔から、布を織り、様々な生活のシーンで大事に利用してきた歴史があります。例えば「パッチワーク」。直訳すれば「つぎはぎ細工」。小ぎれをつないだりアップリケしたりすることです。開拓時代のアメリカでは、使えるところはつないだり、繕ったりしてリサイクルしました。小ぎれをつなぎ合わせて大きくし、保温と丈夫さのために裏布との間に綿を入れて刺し込み、ベッドに掛ける寝具をつくりました。この掛け物のことをパッチワークキルトと呼びます。物が豊かになってパッチワークキルトづくりもすたれたのですが、1970 年代になり、アメリカ建国 200 年を迎え、伝統工芸として評価され、装飾的な作品に変わって復活してきました（アメリカンキルト）。

日本には、東北地方や佐渡、能登、丹後、隠岐おき（島根県隠岐諸島）、中国地方の山地などに「裂き織り」という文化があります。「裂き織り」とは、まず緯糸に織り込む「裂き布」



を準備する必要があります。「裂き布」とは、布を細く裂いてひと続きのヒモ状にしたもので、これが横糸の役目をはたします。古い時代の「裂き織り」に使用された「裂き布」の素材は、ほとんどが木綿ですが、現在では裂けるものであれば、使い古された布でなくても、なんでも利用できます。物がなかった時代、着るものにも人々は大変苦勞していました。布は、これ以上使いこめないというところまで、大切に使いこんでいました。また、北国では寒さから身を守るための厚手の織物が必要で、保温性を目的に「裂き織り」が生まれたとも言われています。「裂き織り」は、生活が自給自足に依存し、貧しくて物を自由に買えなかった人々の、物を使えるまで大切にしようという知恵と工夫から生まれた技術です。

こんな世界中の先人が、大切にしてきた布の文化ですが、今、大きな転機を迎えています。2025. 5. 26 朝日新聞には「洋服の墓場 チリの砂漠に」という見出しで、南米チリの砂漠に「洋服の墓場」と呼ばれる場所があることを紹介していました。各国のアップレルブランドの服が捨てられ、山のように積み上がっているのだそうです。衛生面や環境保護を理由に、多くの国が古着の輸入を禁止している一方で、チリは世界有数の古着輸入国になりました。年間 4 万～6 万トンの売れ残りや古着が、欧米などからたどり着きます。衣類を処分するには、廃棄物処理業者にお金を払わなければいけません。近くまで車道が通るアタカマ砂漠は不法投棄しやすい場所となりました。チリの自由貿易港「イキケ」にたどり着く衣類の 2～3 割は砂漠に捨てられているのが現状だそうです。

そこで提案!! 「パッチワーク」や「裂き布」の技術をチリで活かしてみないか!! 材料費はタダです。これだけあれば、素材に困ることはないでしょう。ファッションの有名ブランド関係の皆さん、冗談抜きで真剣に考えてみて。

